

登録コード	L1233100	開講年度	2026				
担当教員	金井 直 他			副担当	濱崎 友絵		
授業科目	芸術コミュニケーション特論Ⅰ						
英文授業名	Art Communication: Lecture with Workshop Ⅰ						
授業タイトル	芸術コミュニケーション特論Ⅰ						
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・2時限
講義室	人文212講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力			⇔	多様な芸術実践を知り、その価値や意義を多角的に判断できるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	多様な芸術活動に実践的に接し、その価値や意義を多角的に評価・判断できるようになる。		
	【2023年度以降対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			⇔	多様な芸術実践がもたらす経験や知見を、持続可能な社会の実現に活かすことができる。		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	芸術とコミュニケーションの関わりを、広い視野と多様な事例をもって学ぶ授業。複数教員によるオムニバス形式で進める。音楽、美術など、各教員の専門にかかわるジャンルについて、適宜ゲストを迎えつつ、講義形式および見学等学外授業を組み合わせる展開とする。受講者によるリサーチ、発表も重視する。また、関連文献の抜粋（和文・若干の英文）を読むことで、理解を深めていく。 なお、学外授業は、県内自治体の協力を得て実施する。						
授業計画	1. イントロダクション 2. 芸術の価値をめぐって 3. キュレーターという仕事 4. アートプロジェクトについて 5. 美術と社会的包摂 6. 美術と教育 7. 美術とデザイン 8. 長野県内の事例 9. 音楽学の射程 10. 音楽を「書く」ということ 11. 音楽の「歴史」を考える 12. 楽器とは何か 13. 地域と音楽 14. 「音楽家」を考える 15. 音楽－美術－舞踊をめぐる視角、15分の授業アンケート 期末試験の有無 なし ※授業の進捗状況によって内容に多少の変更が生じる場合があります。						
成績評価の方法	授業時のコメントシート等簡易な記述30%、教員ごとに出题するレポート2件70%						
成績評価の基準	コメントシートおよびレポートについて、授業で示した基本用語・事例を理解していれば「水準にある」。重要語句・重要事例に対する理解が進んでいれば「やや上にある」。授業内容をしっかり理解し、自身の見解も示せれば「かなり上にある」。授業内容を完全に把握し、さらに主体的な学習と思考が加えられていれば「卓越している」。						
事前事後学習の内容	授業時のコメントシート等においては、前回の授業内容を踏まえた解答も求めるので、授業内容・配布資料の復習に日々努めること。						
履修上の注意	リサーチや発表をお願いすることもあるので、一定の予習復習が常に必要。実作とふれあう経験が不可欠。まづもと市民芸術館等、市内文化施設での授業を複数回実施する予定。集中的に開講される場合は、その旨、受講生にメールで連絡する。						
質問、相談への対応	メールで。 kanait@shinshu-u.ac.jp						
教科書	特になし。						
参考書	山本浩貴『現代美術史』中公新書、2019年 美学会編『美学の事典』丸善出版、2020年 徳丸吉彦『ミュージックスとの付き合い方 民族音楽学の拓がり』放送大学叢書、2016年 日本音楽学会編『音楽史事典』丸善出版、2025年						